

事業所における自己評価結果 児童発達支援事業				事業所名 長野市篠ノ井愛の樹園
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・人数に応じてグループ分けをしたり、時間で区切って使用するなど工夫している。	・自由遊びの時間等、密になる時間帯に複数の部屋での活動を提供できるような工夫が更に必要。
② 職員の配置数は適切である	○		・各グループの児の特性等に配慮し、必要かつ適切な職員配置をしている。 ・その日の利用人数に合わせて職員の配置をしている。	・活動によって適宜動けるフリーの職員配置や活動に合わせたグループ分けなどの対応ができるよう、職員のスキルアップが望まれるので園内研修を行う。 ・適切な職員数を配置していると思うが、より支援の質を高めるためにはプラス1の配置をしたい。職員の休憩や事務処理の時間確保も検討してほしい要望がある。改善について検討していく。
③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・必要に応じてパーテーションなども使用している。 ・視覚支援やスケジュールの掲示など工夫している。	・特性に合わせて環境を整えたり、分かりやすい生活空間にすることを職員が誰でも気付けるように伝達する。
④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・こまめな消毒で衛生面に配慮している。また、換気やアクリル板のパーテーションなどを使い感染対策も行っている。 ・助成金等の補助で空気清浄機など設置ができた。	・衛生面や環境整備については好評をいただいているが、建物自体が非常に古く工夫だけでは乗り越え切れない問題もあるため、法人、行政と相談しながら対応していく。
⑤ 業務改善を進めるためのPDACサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・日々のカンファレンスで常勤職員では日常的な意見交換も出来ている。	・常勤職員間では出来ているが臨時職員を交えての振り返りが十分に出来ていない。各グループで臨時職員も交えた振り返りが必要。 ・全職員が参画する園内研修などの取り組みを検討したい。
⑥ 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・自己評価以外にも行事後に必ずアンケートを配布し、改善点を皆で共有している。 ・保護者からいただいた意見や要望には出来るだけ対処している。また保護者との懇談会などで対応についても報告をしている。	
⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページにて公表している。	・改善の内容をその都度知らせることができていないため、園だよりなど発信できる場を活用していく。
⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・法人内で順次行われている。
⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・事前に職員間で学びたい内容をリサーチし研修を行っているため興味を持って参加できている。 ・今年度は日ごろの業務に直結する内容で良かった。	・職員の資質向上と同じ方向性で支援を行えるために、定期的に研修を開催したい。
⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・保護者との面談は担当と児発管で行い、ニーズや課題を丁寧に聞き取っている。また専門職の意見ももらいながら多角的に分析している。	
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・MEPAとKIDSを使用している。	・職員の入れ替わりもあるため、アセスメントツールの研修も必要。
⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子供の支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	○		・担当が案を立て常勤職員全員で検討しているため、偏った内容にならず、個々に合った支援計画の立案が出来ている。	・来年度からは立案時に専門職(臨床心理士)のアドバイスも受ける予定としている。更にブラッシュアップした立案を目指す。

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・各担当職員を中心に計画に沿った支援を意識出来ている。個々の連絡ノートに期間中の短期支援目標を入れていつでも確認できるようにしている。また、毎月の記録で目標に対しての振り返りを行っている。 ・支援計画に基づいて出来るようになったこと、うまくいった支援の共有をしている。	・経験年数やそれぞれ職員の個性を生かしながら、また補い合いながらより良い支援が行えるよう、職員間のコミュニケーションを円滑にしていくこと。 ・担当児以外や臨時職員との情報共有などが十分できるよう園内研修の場を設ける。
	<b>チェック項目</b>	<b>はい</b>	<b>いいえ</b>	<b>工夫している点</b>	<b>課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標</b>
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・毎月の療育会議や日々のカンファレンスで、常勤職員間で意見を出し合い検討している。	・限られた時間のなかでアイデアを出し合っているが、じっくり取り組める余裕がない。前もってそれぞれが意見を持ち寄れるような働きかけを検討する。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・プログラムの偏りが無いよう、毎月中心になる職員を交代している。 ・新しい活動や初めての活動、同じ活動でも変化がつくよう計画している。その日に利用するお子さんに合わせて経験してほしい活動を組んでいる。	・それぞれ職員がアイデアを出せるよう意識を高めていくことを周知する。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・個々の目標設定の中で、個別活動と集団活動それぞれの取り組みを考えて作成している。	・活動のバリエーションを豊かにしていけるように、常勤職員だけでなく臨時職員からも活動内容について広く意見を集約できるようにする。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・短時間ではあるが行っている。 ・常勤職員から事前に活動の説明や役割を示してもらっている(臨時職員)	・活動の打ち合わせや準備が直前になってしまうこともあるため、少なくとも前日には確認を終えているようにする。また、当日の変更について臨機応変に対応できるようにする。
⑱	支援終了後には、職員間必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・毎日、カンファレンスを行いお子さんの変化、特記事項などを業務日誌におとし共有している。	・常勤職員と臨時職員で振り返り時間を設けると共に、日ごろから意見交換や情報共有を行う。 ・業務日誌の確認が把握しきれない(覚えきれない)こともあるため、個別の記録にまとめる方法を検討する。
⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・各担当が毎月の支援記録を残している。また日々の振り返りで支援の検証、改善を行っている。	・記録のまとめなど書類作成に割く時間を捻出することが困難。支援ツールの利用検討も含めて効率的な事務処理が行えるようにしていく。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・毎月の支援記録で目標に対しての評価をし、年2回モニタリングを行っている。個々の成長に合わせて計画の見直しをしている。	・十分に出来ているケースと、職員によっては難しさを感じているケースがある。日々のカンファレンスで児発管を中心に相談しやすい空気を作っていく。
㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児発管が主に出席している。園で開催される会議等には状況に応じて担当も参加する。	
㉒	母子保健や子ども・子育て支援の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・地域の保健センターや市の担当者と連携を図っている。	
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・現在対象になるお子さんの利用はない	
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力機関等と連絡体制を整えている	○		”	
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・各機関と連携を図り、移行支援が円滑であるよう情報共有を行っている。 ・保育所等訪問支援事業もあり連携が図れている。	・地域への移行がたやすくもないことも多い。保護者の同意を得ながら情報の共有を行い、お子さまそれぞれに必要な生活の場が得られるように努力していく。
㉖	移行支援として小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・行っている。就学に向けての教育相談は保護者への情報提供も含めて各機関と連携し進めている。	
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・各機関との連携は大切にしている。コロナ禍で十分な連携ができない部分もあったが相談や助言を受けた。	

⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・コロナ禍で予定していた交流を行うことが困難だったが、法人内の保育園と連携をとり、ケースによって対応することができた。	・貴重な機会なので、各園には丁寧に相談を重ねながら今後も交流保育の機会を設けていけるようにする。
	<b>チェック項目</b>	はい	いいえ	<b>工夫している点</b>	<b>課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標</b>
㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・出来るだけ参加をしている。地域保健センターの地域発達支援連携会議なども参加した。	・開催予定のものについては情報を得られるようにし、今後も出来るだけ参加をしていく。
㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・プログラムとしての取り組みはないが、日常的に保護者へのアドバイスなどは行っている。また、研修などの情報提供を行っている。	・引き続き、各機関からの情報提供も含めて保護者へのサポートをする。
㉓	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約の際に説明を行っている。	
㉔	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・お子さんの育ち、保護者のニーズに合った個別支援計画を作成し、必ず保護者から同意を得て、計画に沿った支援をしている。	
㉕	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・送迎時に必要に応じてお伝えしたり、連絡ノートを通じてアドバイスなどしている。	
㉖	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・コロナ禍により開催中止が多くなり、感染対策を行い開催できたのは1回のみとなったが例年は保護者向けの研修や職員との懇談など、保護者会と共催している。	・感染対策をしながらの開催や、リモートでの開催について検討している。
㉗	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・行っている。保護者からの申し出があった場合には迅速に面談の日程を組み対応している。相談支援専門員との連携も回りサポート体制を整えている。	
㉘	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・園だよりによる発信をしている。また行事の際にはその日の様子を写真でまとめて送迎時に保護者に回覧してもらっている。	・ホームページの活用は今後の課題であり、内容の更新など検討していく。
㉙	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・注意している。	
㉚	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・特に保護者とのコミュニケーションに関しては送迎時や連絡ノートを通して迅速な対応を心掛けている。	
㉛	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・コロナ禍で困難ではあったが、地域住民からの協力や理解を得られている。	・年2回の隣接する事業所と行う合同防災訓練で地域の方にも参加をお願いしている。
㉜	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・策定している。また保護者にはいつでも回覧できるよう園内に用意し、月に1度の避難訓練を実施している。	
㉝	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎月の避難訓練で、火災、地震、水害などの訓練を行っている。	・散歩時や園外活動中の訓練を行ったことがないので、取り組みを検討する。

④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこともの状況を確認している	○		・利用開始時に基礎情報として確認している。また予防接種についても接種内容を確認している。変更があった時にはその都度確認している。	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・食物アレルギーの場合は医師の診断を受け指示書をもとに対応している。	
	<b>チェック項目</b>	<b>はい</b>	<b>いいえ</b>	<b>工夫している点</b>	<b>課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標</b>
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事例集の作成はしてないが、常に回覧できるようにしている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止については法人全体で取り組んでおり、周知徹底をしている。	・支援においての言葉かけや動作が適切であるか職員がお互いに声をかけるという意識が必要。それぞれに責任があり、また言いやすい雰囲気を心がけていく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・全体職員会で周知している。また必要があれば保護者に説明し支援計画に記載する。	・現在、対象となるケースはないが、対象児がいた場合の対応については職員間での周知が更に必要。支援計画の記載と、行った場合の記録など整備する。